ＣＦＴニュース＆息抜き（６月）

全日本コーヒー公正取引協議会（コーヒー公取協）に寄せられた問い合わせなどを、トピック形式で毎月リリースします。参考になれば幸いです。

１．２０２５年６月の気になる問合せ

（１）　夏にインフューズドコーヒーのブレンド(冠コーヒー豆：30%配合)を販売するため、販促用 POP を作成しました。この POP（省略）について可否の判断が難しく、全日本コーヒー公正取引協議会にメールしました。いかがでしょうか。

⇒　POP を見たところ海外でインフューズドされたコーヒー豆を輸入して使用される製品と理解しました。

ご承知のようにインフューズドコーヒーについて公的な定義はないため、一昨年、国内でコーヒー豆を日本酒に漬込んだコーヒー製品の表示については、「原材料名：コーヒー豆、日本酒」と表記することで消費者庁の理解を得ています。御社の製品についてもコーヒー豆をイチゴジュースに漬けたのか、それには蜂蜜も使用されていたのか、御社の納入先に使用原材料を確認され原材料名表記を行ってください。

POP については、販売製品を修飾する表現（具体的記載あるが省略）について、問合せがあれば、応えられるようにしてください。応答できないと景品表示法の優良誤認とされかねませんので、御社で統一的に応えられるようにしてください。

（２）　〇〇団体のメンバーである。仲間（公取協会員社）から「君の所のモカブレンドはエチオピア産コーヒーの使用比率が書いてないから問題になる」と言われ驚いた。コーヒー公取協会員以外はブレンドコーヒーの冠になるコーヒー豆の使用量を記載しなければいけないとのことだが、上部団体がコーヒー公取協会員だから所属員は全て会員とみるべきでないか。おかしい。

⇒　全日本コーヒー公正取引協議会に加盟している団体は日本珈琲輸入協会、全日本コーヒー商工組合連合会、一般社団法人日本スペシャルティコーヒー協会の３団体です。

これらの団体がコーヒー公取協の研修会に参加する時は、１団体１会員参加できます。輸入協さんは２会員分の会費を負担されていますので輸入協の２会員が参加可能です。

貴団体が加盟された経緯は研修会に事務局が参加したいとのことで加盟されたものです。その時、研修会への参加は事務局のみとしています。

御社のモカブレンドについてアドバイスされた方は、食品表示法に定める「特色のある原材料表示」に従った表示を行うべきとの趣旨で話されたのだと思います。コーヒー公取協はブレンド表示の適正化を目的として１９９１年に設立され、景品表示法に基づくコーヒー公正競争規約で、冠ブレンド製品は当該冠に相当するコーヒー豆を３０％以上使用することとし、今日に至っています。

その後、２０１５年に食品表示法が施行され「特色のある原材料表示」が食品表示基準（内閣府令）に規定されました。食品表示法は他法令で規定された制度はそれに従うこととしています。

この際、コーヒー公取協への加入を検討してください。

２．コーヒーを巡るいろんな状況

昨夕の日経新聞夕刊（６月１１日）にマイ・フェア・レディの主人公、下町生まれの花売り娘イライザにヒギンズ教授が言語矯正やレディーとしてのマナーを教える記事が載っていた。この記事で昔、CFT 子がロンドンダンピング条約の改定交渉で国際海事機関（IMO）に出張していた時の光景を思い出した。

条約の改定交渉時のお昼時間に、CFT 子が忘れ物でガラガラの会議場に入ったところ、日本の農林水産省に相当する英国の農業・貿易省の環境担当の若い職員がレコーダーに話しかけ録音・再生を繰り返すのに遭遇した。何をしているのか怪訝に思い、暫く聞いていると、彼がイントネーションを含めしゃべり方の訓練をしているように思えた。４か月に一度の会合であったが、２回目の会合で彼は上司の課長とそん色のないクィーンズイングリッシュで発言し、訛りが全くなくなっていることに驚いた。

階級社会の英国では会話をするだけで階級がわかると聞いていたが、英国の若い役人の日本人には考えられない努力に驚くと共に、日本人には理解できない世界に思えた。参加していた条約改正の出席者は先進国が多く、東アジアは日本と中国であった。英国とオランダの参加者は自分の地位に関係なく、ドア

の向こうに人影があるとドアを開けて向かい入れ、後に続く者があると後に続く者を先に出したりするマナーには驚いた。これが英国やオランダのエスタブリッシュメントのマナーかと思った。CFT 子のような日本人には身に着けようにも着かないマナーである。ドアを開けてもらえば、当然「Thank you」と言わねばならないが忘れることがあり恥じ入る。

後日、CFT 子が国際コーヒー機関（ICO）の理事会に参加することとなり、ICO の会議場に何度か行ったが、ICO が手元不如意になり、2014 年頃から IMO の会議場を借りることになった。初めての IMO 訪問時から２０年ほど経過したこともあり、まずかったカフェテリアは美味しくなり、このようなことを言うのは良くないが、カフェテリアスタッフは殆どが白人に変わり、雰囲気が昔と全く異なるのにも驚いた。ICO の理事会はコーヒーもビスケットも無料だが、IMO の条約交渉はコーヒー１杯１ポンド、ビスケット１枚５０ペンスで貧しい出張者には簡単にお替りできなかった思い出がある。

メディアは米の値上がりを盛んに報道するが、生産者の使用する肥料や農薬などの生産コストがロシアのウクライナ侵略後、異常に高騰したことは殆ど報じない。また、コメ生産者の人件費の実態も調べていないようである。メディアサーカスに徹しているように見える。コーヒーは嗜好品なので偉そうには言えないが、日本の港に着くコーヒーの１～５月の輸入 CIF 価格（船賃＋保険料）は前年同期比で５９％UP である。日本で最もポピュラーなブラジル産も５９％UP、二番目に使用量の多いヴェトナム産は７４％UP である。コーヒー生産国のコーヒー生産者も肥料や農薬などの生産資材の高騰で苦しんでいると聞く。付加価値の低い一次産品生産者は米もコーヒーも余り違わない状況下にあるようである。

（２０２５年７月３日記）